

これまでの町の取組み及び 分科会の設置目的等について

令和8年5月23日

地球・環境・未来会議 in みのわ

気候変動に備える分科会（第1回）

箕輪町役場 総務課ゼロカーボン推進室

これまでの町の取組み
(緩和策)について

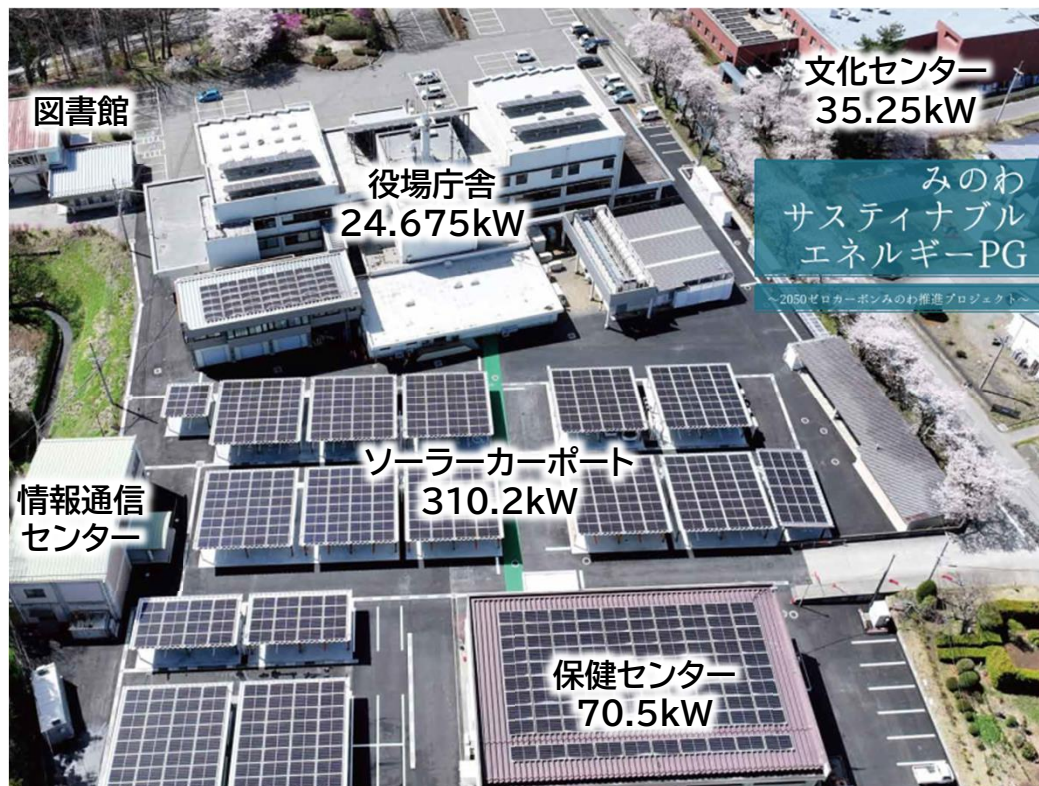
地球温暖化対策実行計画 策定・施行までの経緯等

イベント	時期	概要
改正温対法公布	R3年6月	
条例改正	R3年6月議会	町環境保全条例を一部改正し、環境審議会の下部組織として「必要に応じて特別委員会を設置できる」旨を規定
特別委員会の設置	R3年7月	町地球温暖化対策特別委員会を設置以降R4年3月まで5回開催
特別委員会の開催(第4回)	R3年12月	脱炭素促進区域について説明
特別委員会の開催(第5回・最終回)	R4年3月	最終まとめ 脱炭素促進区域について一定の理解
改正温対法施行	R4年4月	
町環境審議会から答申	R4年5月	町環境審議会から答申
町議会への説明	R4年6月	全員協議会において区域施策編・促進区域について説明
町地球温暖化対策実行計画施行	R4年7月1日	区域施策編（促進区域も設定）・事務事業編施行 2030年度までに2013年度比でCO₂の実質 60%削減目標
ゼロカーボンシティ宣言	R4年7月3日	町文化センターホールにおいて町民の皆様とともに宣言
環境省 町事業計画書を受理	R4年9月	地域脱炭素移行再エネ推進交付金 重点対策加速化事業

地球温暖化対策実行計画 区域施策編の検討体制



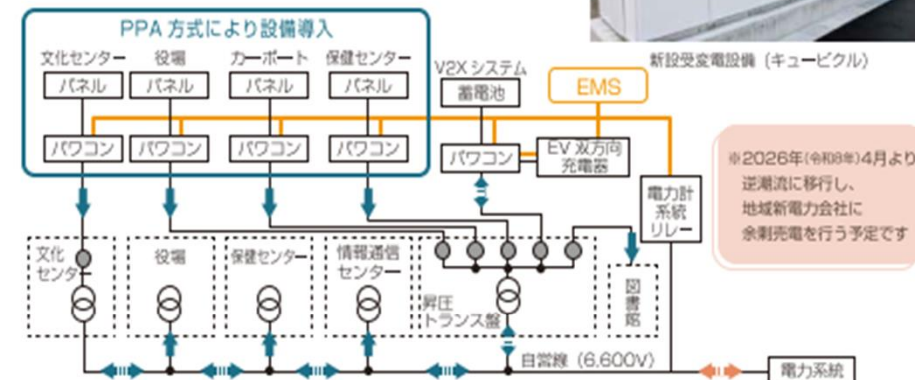
庁舎周辺事業(みのわサスティナブルエネルギーPG)



- 庁舎周辺整備事業(事業呼称:みのわサスティナブルエネルギーPG)は、太陽光(440kW、PPA)発電量をオンサイトで漏れなく利用するため、自営線(公共施設5施設を接続)、V2Xシステム、EMSを活用している。
- 発電設備はPPA事業による(契約期間20年間)。

自営線

新設受変電設備(キュービクル)と既存の高圧4施設(役場庁舎、保健センター、情報通信センター、文化センター)と低圧1施設(図書館)をケーブルで接続。太陽光発電電力を複数の施設で融通し無駄なく利用することが可能となりました。



V2Xシステム・EV 双方向充電器 ※写真は一部



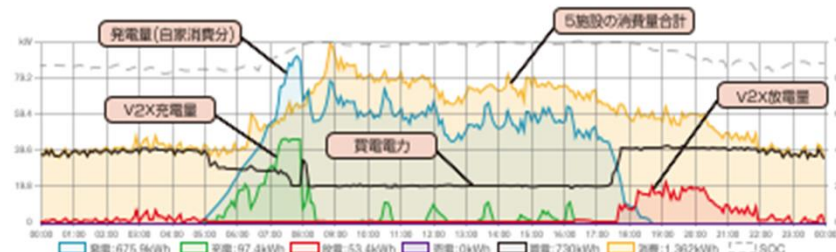
V2Xシステムに接続する
双方向充電器10基は公共施設への
導入実績として**国内最大規模***

*調査の明確
市場調査テーマ名:「V2Xシステムに接続する双方向充電器」に関する市場調査
調査機関名: (株) 未来トレンド研究機構
調査結果: 2025年5月19日時点

- 左) マルチパワーコンディショナ 50kW
蓄電池 148.8kWh
提供: 東芝インフラシステムズ (現東芝)
- 右) 5kVA EV 双方向充電器 10基
橋本チエイン製

エネルギー管理システム(EMS)

受変電設備、太陽光パワコン (PCS)、V2X システム (蓄電池と EV 双方向充電器)、EV 充電器と EMS 制御装置を光ケーブルで接続。施設の電気使用量と太陽光発電量を常時監視し太陽光発電の自家消費量を最大化し、EV のデマンドレスポンス制御により契約電力の超過を防止します。逆潮流移行後は電力会社からの出力制御にも対応します。



V2Xを備えた太陽光活用型災害レジリエンスの強化

- 太陽光電力の経路切替操作によりV2Xシステムに太陽光電力が供給され持続的な防災電源の確保が可能である。
- この運用は町とPPA事業者である八十二Link Nagano株式会社が締結した「災害時におけるV2X運用協定」に基づく。

- V2Xシステムに接続されているEV(最大10台)や大型蓄電池(約150kWh)から役場庁舎(災害対策本部、諸室)に非常電源を供給する(自動切換え、最大50kW)
- V2Xで充電されたEVを“走る非常電源”として町内避難所に派遣する計画である。

NEWS RELEASE

八十二Link Nagano

2025年4月25日

各位

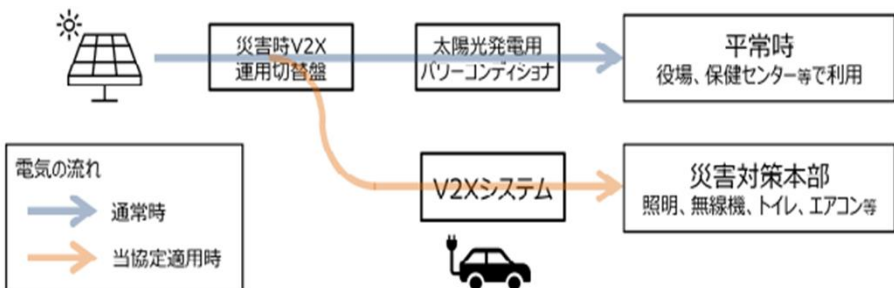
八十二 Link Nagano 株式会社

箕輪町との災害時におけるV2X運用協定の締結について

- ・ 八十二 Link Nagano 株式会社 (以下、八十二 Link Nagano) は、長野県箕輪町 (以下、箕輪町) と災害時におけるV2X運用協定 (以下、本協定) を締結いたしました。
- ・ 4月1日より、箕輪町の公共施設5か所へオンサイトPPA (※) による再生エネ電気の供給を開始しました (同日付ニュースリリース「長野県箕輪町の公共施設へのオンサイトPPA運転開始について」参照)。
- ・ 箕輪町役場等へのオンサイトPPAにつきまして、停電を伴う災害発生時、「災害対策本部」の重要負荷への電源供給を、当社の太陽光発電設備より発電した電力により行います。
- ・ この電源供給については、八十二 Link Nagano が箕輪町の災害対応を支援するため、電力を無償供給いたします。

八十二 Link Nagano (代表取締役社長: 下澤 敦司、長野市) は、この度、箕輪町 (町長: 白鳥 政徳) と災害時におけるV2X運用協定を締結しましたので、以下に概要をお知らせいたします。

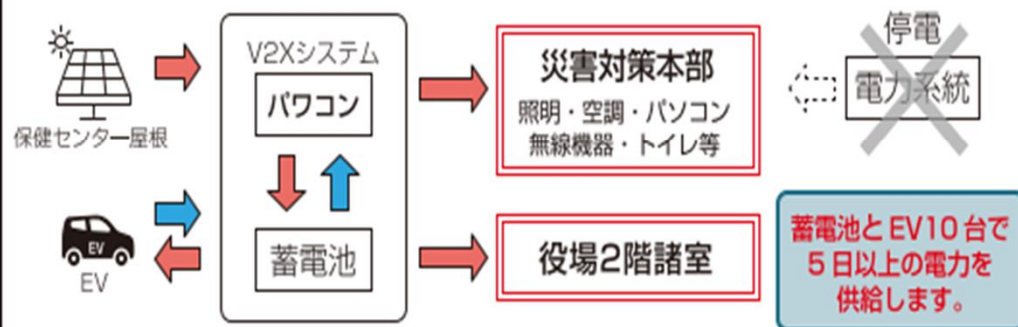
【災害時の電力供給のイメージ】



災害発生時 (役場での活用)

停電を伴う災害発生時にはV2Xシステムから役場2階諸室と役場3階講堂に開設される「災害対策本部」に対して電源供給を行うことを目的とした運用*を行います。

*PPA事業者である八十二Link Nagano(株)と箕輪町が締結した運用協定に基づきます。



災害発生時 (町指定避難所での活用)



住民向け・事業者向け補助金等

4 2050ゼロカーボンみのわ推進事業

令和8年度予算額：9,721万円（うち再エネ推進交付金6,644万円）

ゼロカーボンの実現に向けて町民・事業者の取り組みを強力に推進します。このため太陽エネルギー活用による創エネと住宅の断熱化による省エネ及びライフスタイルの変容を促し、ゼロカーボンにつながる新しい快適で豊かな暮らしと持続可能な地域社会づくりを目指すとともに、災害時等における停電対策など地域防災力強化を図ることを目的に補助事業等を実施します。

1 太陽光発電・蓄電・太陽熱設備の導入補助 8,338万円

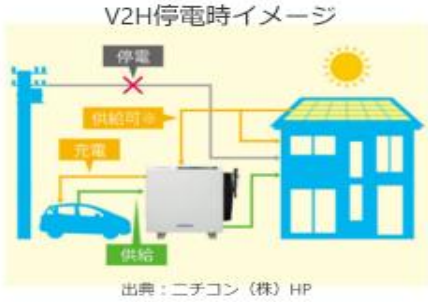
- A：（個人）太陽光発電設備 50件 4,000万円★
10万円/kW（上限100万円）
- B：（個人）Aの太陽光と常時接続する定置型蓄電設備 20件 840万円★
補助率3分の1 最大6万円/kWh（上限42万円）
- 拡** C：（事業所）太陽光発電設備 2件 600万円★ **対象に新築を追加**
6万円/kW（上限300万円）
- D：ソーラーカーポート3件 700万円★
補助率3分の1（上限個人100万円 事業所500万円）
- E：太陽熱利用システム 30件 1,800万円★
補助率3分の2（上限60万円）
- F：蓄電設備（単独設置）20件 200万円
4kwh以上のもの 1件10万円

太陽光等普及施策 198万円

新 事業所太陽光発電経済効果シミュレーション
・SNS広告（継続）

3 EV・V2H導入補助 200万円

- ①EV*・PHV*の導入
EV購入者に対する補助 10台 100万円
CEV補助金の10分の1（上限10万円）
 - ②V2H*充放電設備の導入
V2H導入者に対する補助 10基 100万円
V2H補助金の10分の1（上限10万円）
- ①②とも国・県等の補助事業との併用可



※EV(Electric Vehicle)・・・電気自動車
※PHV(Plug-in Hybrid Vehicle)・・・外部から電源をつないで充電できるハイブリッド車
※V2H(Vehicle to Home)・・・EV・PHVへの充電及びEV・PHVから住宅へ電気の供給ができる装置

2050ゼロカーボンみのわ

**ゼロカーボン推進
4つの取り組み**

2030年度CO2
実質排出量
60%削減

4 その他の取り組み 433万円

- 新** ①事業所CO2可視化支援事業
町内事業所が脱炭素経営に取り組む第一歩として、CO2排出量の可視化、削減施策の検討等を支援し、地域全体の脱炭素化と企業価値の向上を図ります。 5件 105万円
- ②啓発・もったいないキャンペーン+の実施（継続）
住民のゼロカーボンの取り組みへの意識等の向上を図り、一人ひとりがゼロカーボンに取り組んでもらえるよう、継続的な街頭啓発活動を実施します。 158万円

2 住宅の断熱化推進補助 750万円

- 窓・ドア・その他の改修**
- ▶開口部の単板ガラスを複層ガラスに替える工事
 - ▶新たなサッシを設置して、二重サッシとする工事
 - ▶屋根、壁、床等に断熱材を設置する工事
- 補助率2分の1（上限15万円）50件 750万円
※国・県等の補助事業との併用可（ただし補助残の2分の1）



- ③太陽光ゼロ円設置協力金（継続）
PPA等により住宅へ太陽光発電設備を導入1件2万円 10万円
※PPA(Power Purchase Agreement(電力購入契約))・・・PPA事業者が太陽光発電設備を住宅等に無償で設置し、発電した電力のうち使用電力分を利用者が買い取る契約形態
- ④木質バイオマス機器設置補助（継続）
11件（上限20万円）160万円

令和7年度に複数の賞を受賞しました

ソーラーウィーク大賞 優秀賞 (一社)太陽光発電協会様主催

■ 評価ポイント

- ・行政がリードする提案として評価に値する。
- ・市内横断型の実行体制により市内プロジェクトを推進する手法は、小規模自治体が学ぶべきポイント。
- ・「気候町民会議inみのわ」や「地球・環境・未来フェスinみのわ」など、町民を巻き込む取組が行動変容を促す試みとして評価された。
- ・地域新電力、地銀、町内事業者、商工会、有識者、農業関係団体、域外ネットワークなど、多様な主体との協働体制が強みとされた。



脱炭素都市づくり大賞 特別賞(小規模都市チャレンジモデル) 国交省・環境省主催

■ 評価ポイント

- ・PPAモデルによる再エネ導入
- ・電力の地産地消モデルの構築
- ・地域全体のBCP強化
- ・他の小規模都市にも普及しやすいモデル性



県内9番目のSDGs未来都市に選定されました



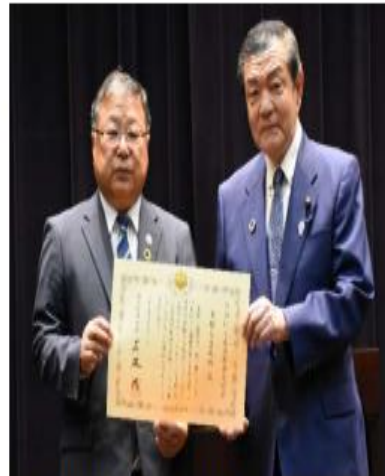
箕輪町が「SDGs未来都市」に選定されました



「つなぐ えがく みのわの未来」～SDGsで描くみのわの未来～

令和7年7月22日（火）に、令和7年度（2025年度）「SDGs未来都市」選定証授与式が、内閣府（中央合同庁舎8号館・講堂）行われ、伊東良孝 内閣府地方創生担当大臣から、白鳥政徳 箕輪町長に選定証が授与されました。今年度は、全国で9都市（9自治体）が選定され、長野県内では9番目になります。

（2018:長野県、2020 大町市、2021 長野市・伊那市、2022 上田市・根羽村、2023 松本市、2024 安曇野市）
累計で、SDGs未来都市：215都市（216自治体）、自治体SDGsモデル事業：70都市



伊東内閣府地方創生担当大臣と白鳥町長

1 SDGs未来都市とは

SDGsの理念に沿った取組みを推進しようとする都市・地域の中から、特に優れた取組みを提案する自治体として、内閣府から選定される都市・地域のことです。

計画のタイトル：「つなぐ えがく みのわの未来」～SDGsで描くみのわの未来～ 提案者名：長野県箕輪町

経済

箕輪町の課題A
安定的な産業基盤に向けた経営支援

- 産業用地の確保、事業者支援
- 農業拠点施設（みのわたラス）の充実



みのわたラス

経済面の相乗効果①
住民満足度の向上

社会面の相乗効果①
働き手のモチベーションアップ

<三側面をつなぐ統合的取組>
もみじ湖プロジェクト

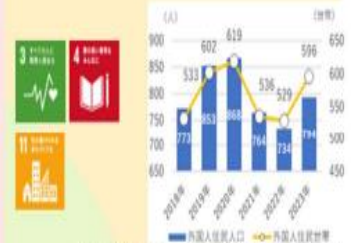
<統合的取組の概要>

- ・オーバーツーリズム対策
- ・企業CSV、地域連携の強化
- ・産学官金の連携
- ・労働力・担い手の確保、維持
- ・郷土愛の醸成

社会

箕輪町の課題B
多様性を踏まえた安全安心なまちづくりの推進

- 充実している子育て環境の維持
- 災害に強いまちづくり



多文化共生のできる安全安心な暮らし

環境面の相乗効果①
CO2削減

経済面の相乗効果②
企業活動の価値向上

箕輪町の課題C
脱炭素化の実現に向けた取組の推進

- 脱炭素化農業の推進
- 森林ビジョンの推進
- 観光地のオーバーツーリズム対策

環境面の相乗効果②
水質保全の意識向上

社会面の相乗効果②
郷土愛の醸成



もみじ湖

環境



協働でプロジェクトの実現を



2025年（令和7年）気候町民会議 in みのわ

法政大学社会学部 教授 茅野 恒秀氏報告資料から抜粋

気候町民会議inみのわ まとめ報告



1. 気候町民会議 in みのわ とは？

箕輪町発足70周年の節目を迎え、地球温暖化がもたらす気候変動について、**私たち1人ひとりができることや、どのように推進していくべきかなどを、町民の皆様と考える。**

信州大学生などを交えて一緒に「ゼロカーボン」や「持続可能な町づくり」をどのように実現していくか、**町民目線での取組を議論**していきます。

箕輪町民

16歳～70歳の方

2000名

無作為抽出
(くじ引き)



参加表明

をくださった方

30名



信州大学生

10名

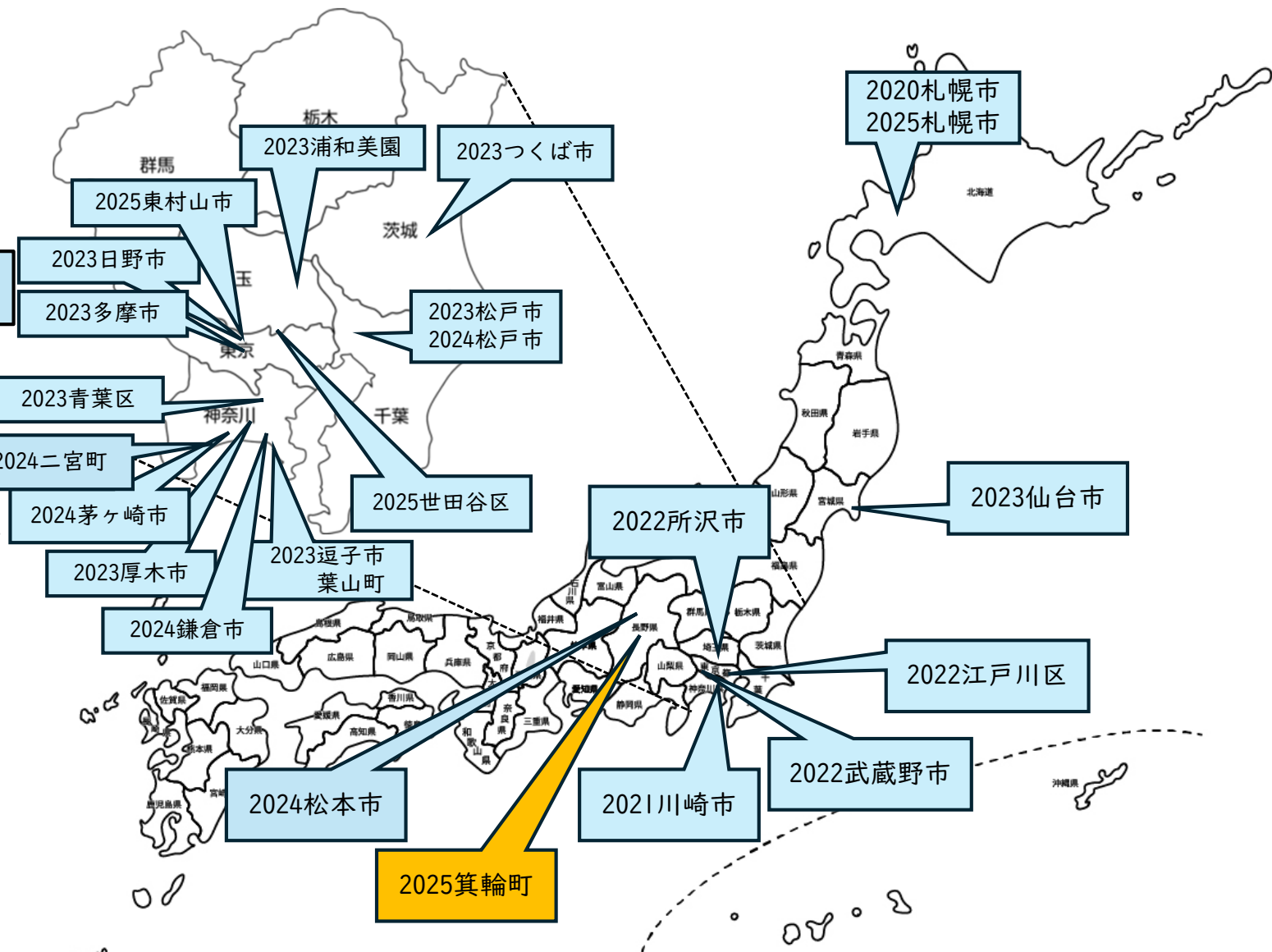
40名が学び、対話を重ねます



箕輪町での開催は 全国で25例目 (23自治体目)

- ①長野県で2例目！
- ②町単独での開催は
全国で2例目！
- ③日本で最も高い開催地！

※松本市役所 592m
箕輪町役場 705m



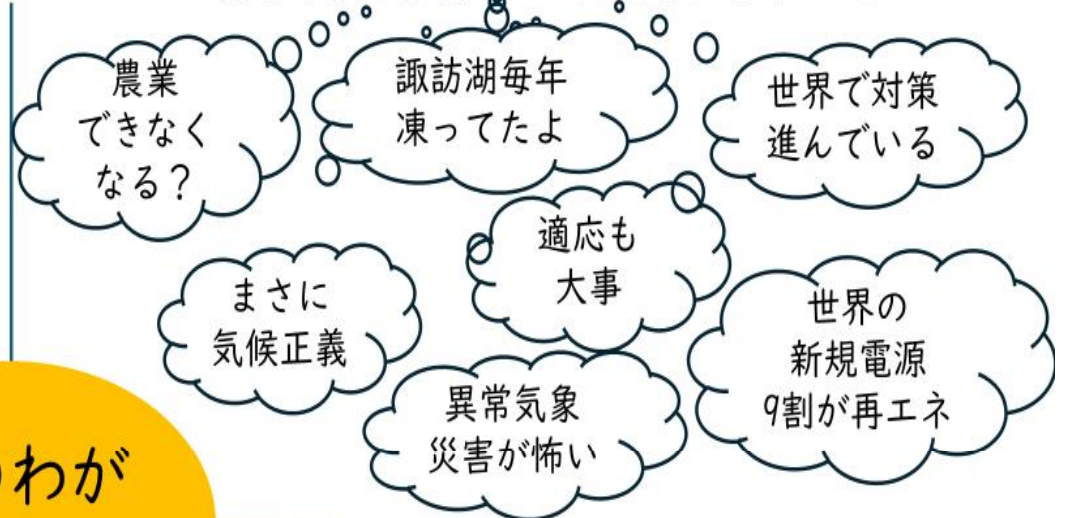
(日本の気候市民会議
https://citizensassembly.jp/project/cd_kaken/jp-list)

3. 重ねた対話（意見の例）

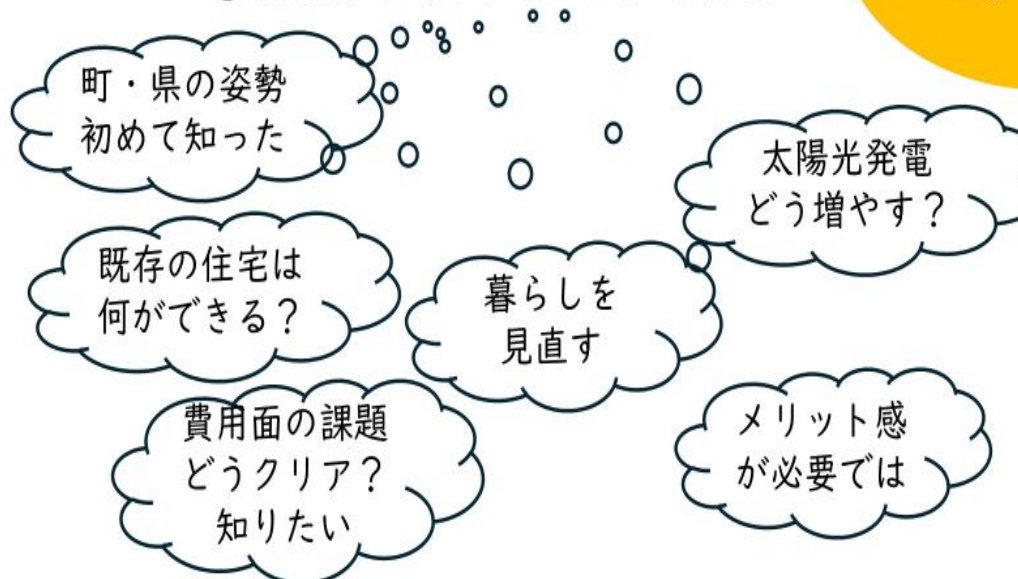
①箕輪町の魅力、イメージ



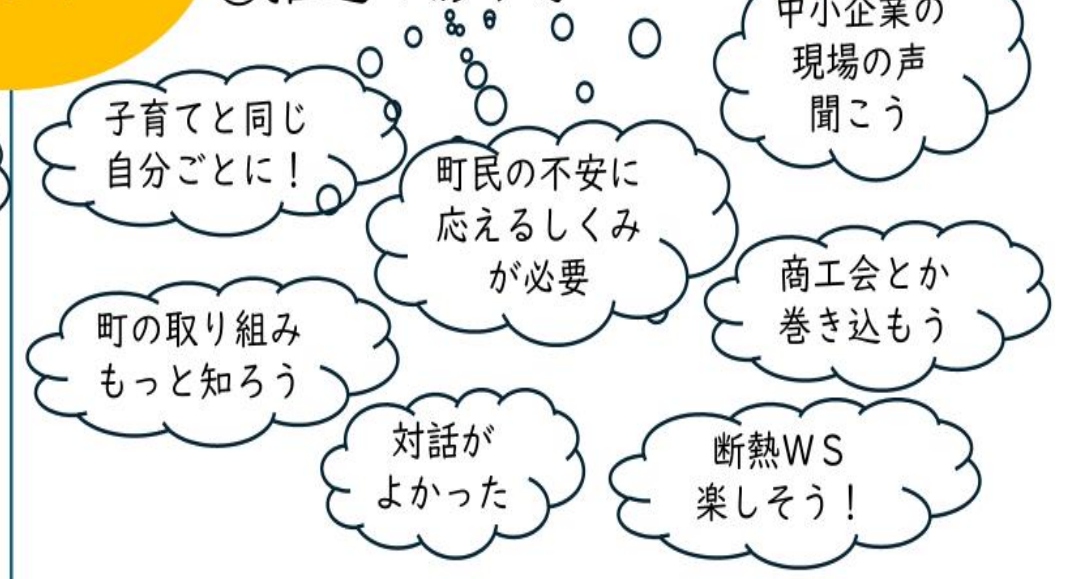
②気候変動への疑問、気づき



③重要な取り組み、課題



④推進のあり方



4. 箕輪町らしい気候変動対策の推進

① みんなで知る／みんなで伝える

- 気候危機：世界と箕輪町への影響
- 地球と次世代への責任：気候正義
- 町のビジョンと取り組み、企業の取り組み
+ 町民がすべきこと、できることを明確に
= 地球温暖化対策アクションプラン2022
- 地区や学校、職場のまとまりを活用
- 地域の情報を日ごろから話題に
- 「ゼロカーボンを実現する先進地」を
町民が他地域に自慢できるようになる

みのわが
好き！

② みんなで備える／みんなで変える

- 農業と工業の町が持続するために
- 太陽光発電に適した立地を活かす
- 省エネと再エネの経済的メリットをわかりやすく示す：心理的ハードルを下げる
- 取り組むことが楽しくなる活動デザイン
- 象徴的な変化を起こしてみよう：
例) 学校や高速バス停への送迎など

③ みんなで備える／みんなで変えるために

- 箕輪町で共に生きるすべての人々の「自分ごと」にしよう
- 行動する町民を支えるしくみを、協力してつくろう
- 「ゼロ仲間」になろう、「ゼロ仲間」を増やそう
- 気候町民会議のような学びと対話の場をつくり、参加しよう

気候変動に備える分科会 について

1 ふたつの気候変動対策

緩和とは？

原因を少なく
MITIGATION

2つの 気候変動対策

緩和策の例



気候変動による人間社会や自然への影響を回避するためには、温室効果ガスの排出を削減し、気候変動を極力抑制すること（緩和）が重要です。

適応とは？

影響に備える
ADAPTATION

適応策の例



緩和を最大限実施しても避けられない気候変動の影響に対しては、その被害を軽減し、よりよい生活ができるようにしていくこと（適応）が重要です。

2 地域気候変動適応計画とは

気候変動によって将来起こり得る影響（暑さの増加、豪雨・洪水、土砂災害、農作物への影響、健康被害など）に備え、自治体が地域の実情に応じて行う対策をまとめた計画。

<計画の目的>

- 気候変動の影響による被害を減らす（適応する）こと
- 住民の安全・健康・生活環境を守ること
- 地域の産業（農業・観光など）やインフラを持続可能に保つこと

<法的根拠>

- 気候変動適応法第12条により、自治体の努力義務

（地域気候変動適応計画）

第十二条 都道府県及び市町村は、その区域における自然的経済的社会的状況に応じた気候変動適応に関する施策の推進を図るため、単独で又は共同して、気候変動適応計画を立案し、地域気候変動適応計画（その区域における自然的経済的社会的状況に応じた気候変動適応に関する計画をいう。）を策定するよう努めるものとする。

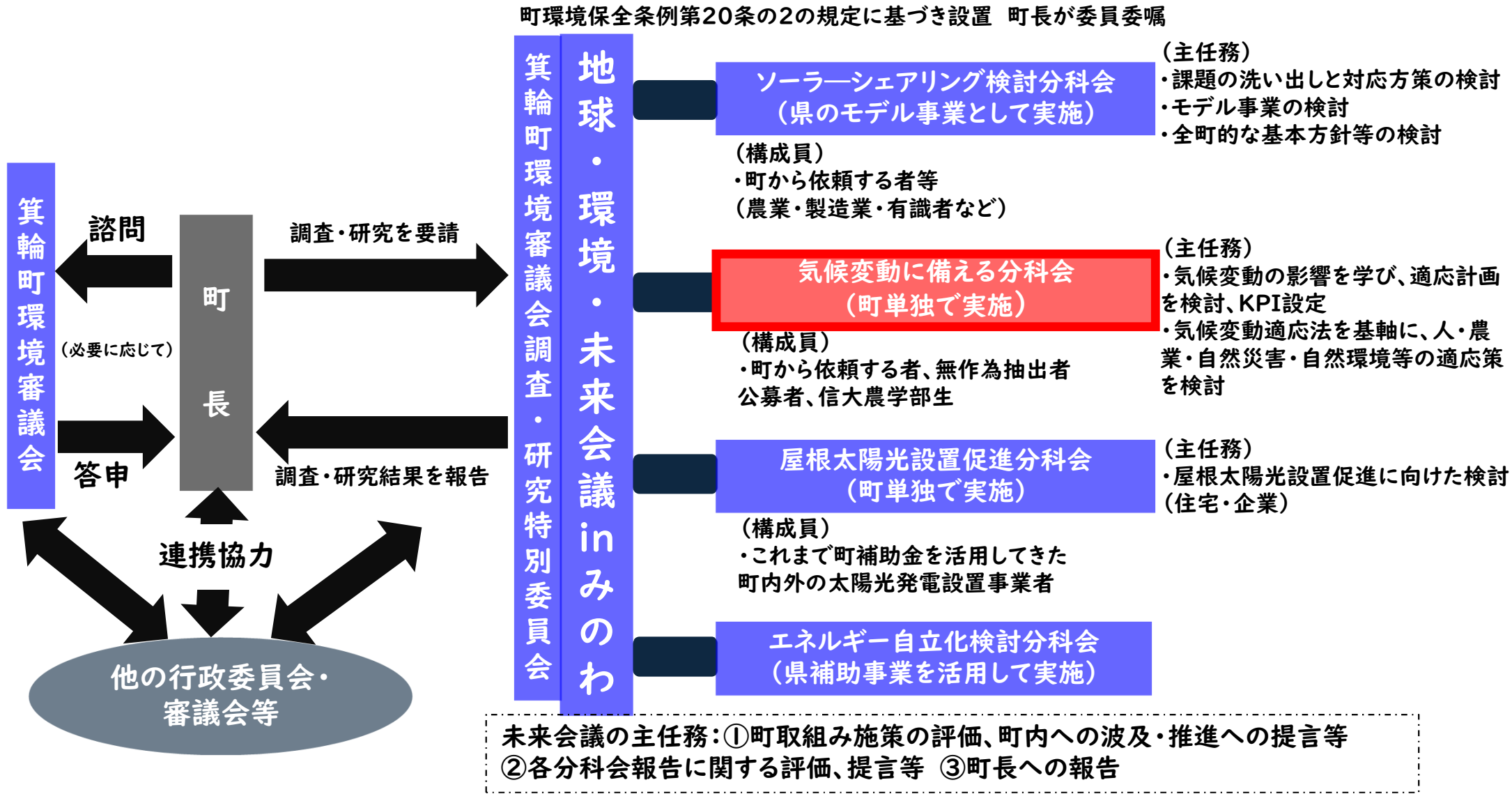
<全国での制定状況>

- 指定都市以外の市区町村：449件（令和8年5月現在、A-PLATより）

<策定方法（予定）>

- 箕輪町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）に組み込む形で策定。
- 農業や熱中症対策、災害対策など、多岐にわたる内容となる。

3 町の推進体制



4 気候変動に備える分科会

- 設置の目的

有識者からの情報提供を受け、町民の皆様と議論をしながら、町としてどのような適応策を実施していくべきか方向性を検討

- 議論の対象（予定）

気象災害対策、インフラ・ライフライン、農業、健康（熱中症等）、水資源 など

- 構成

有識者、関係者、町民、学生サポーター（、町職員）

5月から毎月1回程度、ワークショップ形式で実施

→ 検討結果を参考に、「気候変動適応計画」を策定

5 構成

【委員】

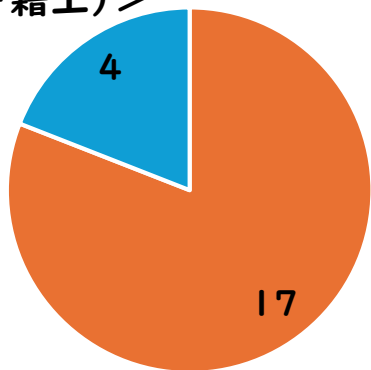
• 町民

・・・無作為抽出された町民500名から応募のあった**12名**

• 有識者・関係者

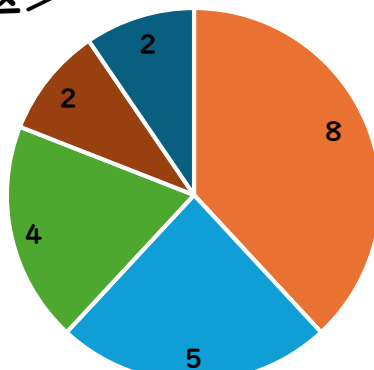
・・・農業従事者、建設・土木事業者、防災士、気候町民会議、本体会議委員**9名**

<性別(戸籍上)>



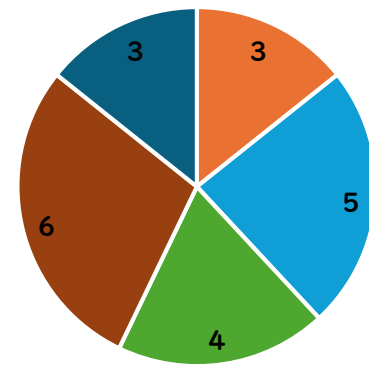
■ 男 ■ 女

<小学校区>



■ 中部 ■ 北 ■ 東 ■ 西 ■ その他

<年代>



■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70代

【学生サポーター】

• 信州大学農学部**の学生**・・・**7名**

【町職員】

• 関係課職員・・・**12名**

6 スケジュール(予定)

5/23
(第1回)

地域の気候変動を知る

- 長野県環境保全研究所からの情報提供
- グループごとに感想共有
- 自分が将来にかけて守りたいこと

6/20・8/22
(第2回・第3回)

みんなが協働して解決できること

- 健康・自然災害・ライフライン・農業・水資源などのテーマごとに情報提供
- グループごとに解決すべき課題、将来望ましい解決策を議論

9/12
(第4回)

チャンスの適応、地域をよくする工夫

- 第2・3回で出された課題を整理し、優先度や期間を分析
- 地域課題の解決につながるチャンスの適応を考える
- 適応計画に盛り込む内容を絞り込む

10/17
(第5回)

箕輪町の未来

- 分科会全体の振り返り
 - 気候変動適応計画の骨子案の目標設定
- 分科会として骨子案の了承

10月下旬:本体会議(地球・環境・未来会議)への成果報告
2月~3月:環境審議会への町気候変動適応計画の諮問と答申